

2019年度

地球環境『自然学』講座

第8回

テーマ

二宮金次郎に学ぶ生き方

講師

親子をつなぐ学びのスペース「リレイト」代表

中桐 万里子 先生

2019年7月27日

認定NPO法人・シニア自然大学校

## 講師プロフィール

中桐 万里子（なかぎり まりこ）



### 1. 経歴

1974年東京都生まれ。現在は京都市在住。二宮金次郎の昆孫（七代目子孫）。同居していた祖母（五代目）より、幼い頃から金次郎の話を聴いて育つ。慶應義塾大学を卒業後、京都大学大学院にすすみ教育学の博士号を取得。現場の教職員のコンサル活動を軸とする「臨床教育」が専門で、2007年からは、家族コンサルの活動を展開するリレイトも主宰。京都大学研究員や関西学院大学講師なども経て、現職。また現在は、全国で企業研修や講演活動の講師をつとめたり、学校での子どもへの特別授業やPTAでの講演なども行なったりしている。

### 2. 現職

親子をつなぐ学びのスペース「リレイト」 代表  
株式会社ケー・エフ・シー 社外取締役

ほかにも、

国際二宮尊徳思想学会	常務理事
大日本報徳社	参事
日本道経会大阪支部	顧問 なども兼務

### 3. 著書

『二宮金次郎の幸福論』致知出版社  
『二宮金次郎に学ぶ生き方』致知出版社 など多数

## 二宮金次郎に学ぶ生き方

### ◆実践家、二宮金次郎(尊徳(たかのり)・1787-1856)の姿

- 一步を踏み出す足
- すべてを「活かす」(農耕型行動哲学)

### ◆実践を押し出すパワー・エネルギー

- 知る、よくみる、カクゴを決める
- 工夫する、対策する、カタチにする
- 秘訣は「積小為大」

### ◆実践が生み出す「実り」

- 実践モデルとしての「報徳」
- 心田の実り から 田畑の実り へ  
(ひとづくり) (現場づくり)

### ◆豊かな未来へ

- give でこそ得る誇りや感動
- 幸せの増産・生産
- 未来へのループ(恩送り)

二宮金次郎昆孫(七代目子孫)

親子をつなぐ学びのスペース「リレイト」

代表 中桐 万里子(なかぎり まりこ)

〒604-8006 京都市中京区下丸屋町403-2階

tel: 075-555-3177 fax: 075-213-5168

e-mail: relate@nifty.com



## 講演概要

薪を背負って本を読む少年像でおなじみの二宮金次郎。意外と知られていない彼の人生は、地味にコツコツ生きた優等生イメージとは大きく異なる明るく豪快なものでした。たとえば、彼はとかく「勤勉」の象徴のように捉えられがちですが、実際には机上の空論を並べ立てる単なる学者や物知り顔の理屈屋を何よりも嫌っていました。生涯を通して大切にしたのは、「勤労」という実践。だからあの像もまた、手に持っている本以上に、背負っている薪や一步を踏み出している足が大切だと伝えられてきました。徹底した実践主義を貫いた金次郎は、その人生の多くを、自然災害による被災地の復興に注ぎました。亡くなるまでには、実に600以上の村々の再建にかかわることになりました。自然たちによる猛威を引き金に、政治や経済も動乱期へと突入し、人心も荒れた江戸時代末期。そのなかで心田（希望）と田畑（経済）の実りを再生へと導くことが、彼の仕事だったのです。

その際、金次郎は一貫して、「ともに豊かに」ということにこだわりました。自分と相手、道徳と経済（心とモノ）、現在と未来……。どちらかが犠牲になるような、奪い合い、競い合いのやり方をこえる方法。豊かな土地と貧しい土地という格差を生みず、どの土地もがそれぞれのやり方で幸せになれる方法。敵を生み出すことなく、さまざまな事態が共存共栄する方法。そうした方法で、ひとびとを導いたのです。こうした金次郎の行動哲学こそ、まさに「農業」という自然と向き合う営みから生まれたものでした。それはいかなるものだったのか……。その点に大きくフォーカスもしながら、当日のお話を展開します。

彼が生きた時代から200年以上が経過していますが、それでもなお、そこには、自分も相手も豊かに生きるための極意、自然との豊かな向き合い方、後輩や子どもたちの育成などひとづくりへのヒント、物心両面で幸せになる秘訣、出遭ってしまう敵や困難や壁を生産的にこえゆくための極意……。現代にも活かせる知恵が、ほんとうにたくさん宿っていることを発見できると思います。家族たちが伝えてきた彼のとおきのエピソードとともに、できるだけ具体的にお話をしたいと考えています。ワクワクドキドキ、一人ひとりが幸せへ向かえる手がかりをみつけられたら……。と願ってのお話になります。